慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	企業の持続的な好業績の要因について
Sub Title	
Author	小室, 圭(Komuro, Kei) 小幡, 績
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2008
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2008年度経営学 第2322号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2322

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	小幡　績 研究会	学籍番号	80730455	氏名	小室　圭

（論文題名）

企業の持続的な好業績の要因について

（内容の要旨）

本研究では、日本の上場企業を対象に、企業の効率化への取り組みと長期的な好業績との関連についての検証を、個別企業を分析・比較することによって行った。分析結果からは、コスト削減・効率化へ取り組みは、どの企業でもしているが、持続的に好業績を達成している企業は、長期的視点、全体最適、継続性、一貫性、といった点で、その他の企業と比較して秀でており、コスト削減を固定費削減的なものと変動費削減的なものに大別した場合、前者だけでなく、後者にも積極的・継続的に取り組んでいる企業の方が、長期的に業績が安定しているという示唆が得られた。

一般に、企業は業績が悪化した場合、人員削減や固定資産の売却などといった、いわゆるリストラにより、業績を回復させようと試みる。その結果として、業績が一時的に回復することになるが、それが長期的に持続することは無い。それだけでは、効率性は獲得できない。企業（経営者）の本当の実力が測られるのは、そこから先の経営活動であり、いかに地道に効率性を追求し続け、コストを削っていくかが重要であると考えられる。持続的に好業績を達成している企業では、それぞれ方法の違いはあるが、その企業活動の中で効率化への不断の取り組みを行っており、そのことが長期的な好業績に結びついているということを、本研究によって示唆することができた。